

各コース選定の考え方(詳細)

1 健康福祉コース

【目指すべき姿】

地域活動等を行うための健康を維持し、児童・高齢・障がい等の様々な福祉に関する地域活動への参画を目指す。

選定の考え方

【人材育成の視点】

・受講者が地域の健康リーダーの担い手となり、講座で得た知識を活用して、地域内で健康意識を広める活動を推進することで、生活の質・住民全体の健康向上に貢献できる。
・「健康学」講座と「まちだの福祉」講座を一体化し、プログラムを再編することにより、心体の健康管理を起点として、共通の体験やワーク、意見交換等を通じて互いにつながり、市民×市民、市民×地域等の架け橋とするため、再編する。

【地域を育てる視点】

市民大学 HATS 理念にも沿って実施している「まちだの福祉」は、受講者が少ないという課題がある。受講満足度と再参加意欲が高く、かつまちだの福祉と親和性の高い「健康学」を統合することで、自身や身近な方の健康を維持しつつ、地域活動等に参画できる健康づくりが可能。結果、新たなコミュニティへの参画や設立等も期待でき、地域全体の福祉の向上や、修了者団体・地域団体等のコミュニティの再生にも繋がることを期待できる。

2 自然環境コース

【目指すべき姿】

町田市を含めた多摩地域の自然について学ぶとともに、環境保護の意義や役割について理解を深め、環境問題に取り組む地域活動へ参加する市民及び環境に配慮したまちづくりを推進する市民の育成を目的とする。

選定の考え方

- 「環境」講座は市民大学の中で「学びを深め、活かす」役割を担い、「福祉」講座とともに基本理念を実践するための基幹的な講座という位置づけであったため、存続することとする。
- 講座内容の固定化や受講者数の低迷という問題の解決のため、学びの入口という位置づけの「自然」講座と統合する。
- 学びのすそ野を広げ、自然に関心がある人の環境への意識を高め、より深い学びである「環境」講座の範疇である地域活動や、環境に配慮した市民の育成へ繋げていく。プログラムを再編し、より多彩な講座メニューを構築することにより、自然への触れ合いをスタートとして、地域活動等の実践へ導く効果的な人材育成の流れを形成する。

3 歴史文化コース

【目指すべき姿】

町田の歴史や文化を総合的に学習することで、地域への理解と愛着を深めるとともに、学習の成果を地域に還元し、地域活動に貢献できる人材の育成につなげることを目指す。

選定の考え方

●これまで「歴史」講座で実施してきた文献史学や考古学だけではなく、民俗や芸能、古建築、さらに文学や芸術等、町田市の歴史や文化について総合的に学び、ボランティアガイドや伝統芸能の継承などの地域活動につなげる目的で、「歴史」講座を「歴史文化コース」として再編する。

4 デジタルコース

【目指すべき姿】

急速に進むデジタル化の恩恵を誰でも受けることができるよう、地域でのデジタル機器に関する相談に乗れる人材を発掘、育成することを目指す。

市民ニーズの反映

- 現在、実施している「なんでもスマホ相談室」に関して、2024年度は新規受講者が約5割を占めており、前年度から約11%増加している。
- 受講申込時や、受講後アンケートで「身近に教えて貰える場が少ない」「時間が短い」等の意見が多数寄せられている。
- 行政手続きのオンライン化やデジタル町内会「いちのいち」等、地域におけるデジタル化も拡大しているが、どちらも利用率は約半分となっている。

選定の考え方

【人材育成の視点】

新規受講者数の推移や受講者等からのご意見を受け、当センターのみでは、町田市におけるデジタルデバйд解消を全て担うことは難しい。そのため、地域や身近な方からも支援を受けられるよう、デジタル人材を育成していく必要がある。

【地域を育てる視点】

①地域でのデジタルデバйд解消の取組に参画できる人材の発掘
⇒町田市においても、様々な機関や団体がデジタルデバйд解消の取組を行っている。左記取組をより活性化させるため、デジタル技術を理解し、活用できる人材を発掘したい。

②町内会・自治会や地域活動におけるデジタルの活用支援

⇒HP運用や office・SNS活用等、デジタル化が急速に進んでいる。左記を活用することの恩恵を正しく理解・伝播することで、持続可能な地域の形成に繋がると考えている。